

# 館蔵資料展「錦絵にみる富士山」

富士山が描かれた錦絵を展示します。浮世絵師の眼を通して江戸時代の富士の景色を眺め、世界文化遺産となった富士山についての理解を深めましょう。

- 主な出品予定作品
- 歌川広重画「不二三十六景 下総鴻の台」「富士三十六景 下総小金原」「江戸名所百景」(日本橋雪晴／市中繁栄七夕祭／水道橋駿河台)
- 「東海道五拾三次之内」(川崎 六郷渡舟／原 朝之富士／吉原 左富士／由井 薩埵嶺)など

4月26日[土]—6月8日[日]  
 会期中の休館日＝4/28(月)、5/7(水)、5/12(月)、5/19(月)、5/23(金)、5/26(月)、6/2(月) 会場＝松戸市立博物館・企画展示室 ◎無料



歌川広重画「不二三十六景 下総鴻の台」

まつどミュージアム No.22 2014年3月28日発行 編集・発行／松戸市立博物館

## 行事案内

### 展示

館蔵資料展「縄文人の祈りとメッセージ」7/19(土)～9/15(月・祝)  
 企画展「Plastic?/Plastic! 高度経済成長とプラスチック」10/11(土)～11/30(日)  
 館蔵資料展「重要文化財・幸田貝塚出土資料展」12/13(土)～25(木)  
 学習資料展「昔のくらし探検」平成27年1/14(水)～3/29(日)

### ガイドツアー（総合展示解説）

常設展示室「人類の登場」から「都市へのあゆみ」までを展示解説員が解説。毎日10:00～14:00～(30分間)◎参加者は観覧料が必要です。

### ミュージアムシアター

①13:15～②15:15～上映(土・日・祝は11:00～も上映)  
 歴史・民俗・考古・自然に関する映像を月替わりで上映。上映内容は館内・館外の上映案内や当館ホームページをご覧ください。

### 学芸員講演会

当館の学芸員7名が、考古・歴史・民俗の各分野から、日頃の研究成果を発表します。(市立博物館・友の会共催)  
 ①4/26(土) 講師:青木俊也『「農村松戸の民俗」から学ぶこと』  
 ②7/26(土) 講師:大森隆志 ③9/27(土) 講師:中山文人  
 ④11/16(日) 講師:山田尚彦 ⑤平成27年1/17(土) 講師:小高昭一  
 ⑥2/14(土) 講師:柏木一朗 ⑦3/14(土) 講師:小林孝秀  
 時間:13:00～15:00

### 講座・講演会(4～6月)

「博物館館内公開」4/27(日)10:00～11:00  
 「歴史を語る①」5/18(日)13:00～15:00  
 「古文書を読む～近世中級編Ⅰ」6/8(日)～(全5回)14:00～16:00  
 「歴史を語る②」6/15(日)13:00～15:00

### 子ども体験教室(4～8月)

「米づくりと展示づくり～小学生学芸員になろう～」5/17(土)～(全10回)  
 「自分でつくる糸と布」7/23(水)～(全5回)  
 「土鈴をつくろう」8/2(土)①10:00～11:00 ②13:30～14:30  
 「勾玉をつくろう」5/3(土・祝)・8/9(土)  
 ①10:00～11:00 ②13:30～14:30  
 「郷土玩具をつくろう」(博物館・友の会共催)  
 ①8/23(土)②8/30(土) 各日10:00～12:00

●講座・講演会・体験教室の詳しい日程や時間・定員等、またこれ以外の催しは、館内・館外のポスターやチラシ、当館ホームページ等でご確認ください。また、事前申込みが必要な場合は、詳細をご覧ください。

●ミュージアムシアターでは、音声の聞き取りにくいお客様のために、一部の席にヘッドフォンをご用意しております。係員に声をおかけください。また、講演会開催等で13:15～の上映を中止させていただく場合がありますので、ご確認の上ご来館ください。

●催しの内容は平成26年3月28日現在のものです。

### はくぶつかんからのおねがい

当館は全館、飲食禁止です(喫茶「アズール」を除く)。水筒やペットボトルなどをお持ちのお客様は、受付でお預かりいたしております。ご協力お願いいたします。



### 観覧無料デーのお知らせ

4月29日「緑と花のフェスティバル」  
 5月18日「国際博物館の日」  
 6月15日「県民の日」この3日間は観覧無料!ぜひご来館ください。

**松戸市立博物館**  
 MATSUDO MUSEUM  
 〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671  
 TEL.047-384-8181

◎開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)  
 ◎観覧料 一般300円(240円)/大高生150円(100円)/小・中学生は無料(市内・市外問わず)  
 ※( )内は20名以上の団体料金。企画展・特別展は別料金です。\*次に該当する場合は観覧無料。市内在住で70歳以上の方、市内在住で身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護人  
 ◎休館日 月曜日(祝・休日にあたるときは翌日休館)、館内整理日(毎月第4金曜日、ただし例外あり)、燻蒸期間(6/23～6/30)、年末年始(12/28～1/5)

ホームページもご利用ください 松戸市立博物館 検索 [http://www.city.matsudo.chiba.jp/m\\_muse/](http://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/)

## 開館20周年記念号

No.  
**22**

2014年3月

開館20周年にあたり、館長からごあいさつ、  
 そして当館学芸員7名が  
 考古・歴史・民俗の各分野をご紹介します。



ごあいさつ

# 博物館20年のあゆみ、そして、これからの博物館

松戸市立博物館  
望月 幹夫 館長

東京国立博物館考古課長、  
 同文化財特任研究員を経て  
 2012年4月より現職。専門  
 は考古学(主に古墳時代)

松戸市立博物館は平成5年(1993)4月29日、「21世紀の森と広場」の一角にオープンし、昨年、満20年を迎えました。この20年のあゆみを簡単に振り返ってみましょう。

博物館の仕事には、展示、資料の収集・保存、調査・研究、教育・普及などがあげられます。展示については、当館では常設展示のほか、厳しい予算のなか、企画展・館蔵資料展・学習資料展などを開催しています。常設展示は博物館の”顔”です。旧石器時代から現代までの松戸の歴史をたどる総合展示のほか、主題展示、野外展示、映像展示を行っています。20年が経過した今、博物館の顔をどのように作り変えていくか、施設の老朽化とともに大きな課題です。企画展は、開館記念展「松戸写真館」を皮切りに、考古・歴史・民俗の分野からテーマを選び、開催しています。昨年は開館20周年記念展「松戸の発掘60年史」が開催されました。館蔵資料展は文字通り、館蔵資料を紹介する展覧会で、現在は年2回開催しています。学習資料展は、小学校の社会科の授業と連動した展示で、平成9年度から始まり、現在は「昔のくらし探検」と題して行われ、市内外の多くの小学校の授業に活用していただいています。また、美術館準備室のために会場を提供し、「松戸の美術100年史」(2011)などの美術展を、折にふれ開催しています。

資料の収集についていえば、湯浅千代子氏より「湯浅喜代治考古コレクション」(13,775点)、中村次雄氏より「プラスチック製工業製品のデザイン関係資料」一式、杉山輝典氏より「郷土玩具ほか」2,217点などをはじめ、多くの方からご寄贈をいただいております。皆様のご厚意によって博物館所蔵資料は充実してきました。貴重な資料として未永く保存するとともに、市民の皆様に公開していきたいと考えて

います。また、当館には異色の所蔵品として、ガンダーラの彫刻などシルクロード関係の貴重な資料があります。常設展示ではあまり展示する機会がありませんが、開館5周年記念展「シルクロードとガンダーラ」(1997)、館蔵資料展「ガンダーラ」(2012)などでまとめて公開してきました。なお、平成6年(1994)、当館所蔵の幸田貝塚出土品266点が国の重要文化財に指定されたことは、市内出土の縄文時代資料が高く評価された喜ばしい出来事でした。

調査・研究活動は地味ですが、博物館の展示を支える大事な仕事です。一例を挙げれば、市内の旧家に保管されてきた古文書を整理し、目録を作成する仕事があります。このような調査・研究の成果は、『紀要』、『調査報告書』をはじめとしたさまざまな形で公表されています。また、当館では、松戸市史編さん事業も行っています。『松戸市史 上巻』の改訂に向けて作業を続けておりましたが、ようやく来年度刊行の予定です。ご期待ください。

教育・普及関係では、講演会・講座・体験学習などを通して、研究成果の公表や市民の皆様の学習意欲に応えるよう努めてきました。こうした活動のなかで、平成14年(2002)に「松戸市立博物館友の会」が発足しました。市民に親しまれる博物館は、博物館と友の会がお互いに協力しあってこそ実現できるものと考えています。当館のマスコット・キャラクターとして、平成13年(2001)に誕生した”じょうちゃん・もんちゃん”も忘れてはいけません。2年前には、「コシッキー」という新しいキャラクターも誕生しました。皆さん、ぜひかわいがってください。

十年一昔といいますが、この20年をひとつの区切りとし、より良い博物館、皆様に愛される博物館をめざして館員一同努力していく所存ですので、よろしく願いいたします。

## 地中に眠る人々の痕跡。発見された“モノ”に込められたメッセージを読み解く。

考古学では発掘された遺跡・遺物を調べ、過去の人々の歩みを探ります。地元発見の遺跡・遺物の存在を身近に感じてもらい、歴史に触れる楽しみやその意義を伝えていけたらと思います。

### これまでの主な展示

- 1993(平成5年度) 「縄文土器の世界」
  - 1995(平成7年度) 「古墳時代の飾り馬 -馬利用のはじまりを探る-」
  - 1997(平成8年度) 「シルクロードとガンダーラ」 開館5周年記念特別展
  - 1999(平成10年度) 「貝塚を考える」
  - 2002(平成14年度) 「弥生人の脳発見! とっとり青谷上寺地遺跡展」
  - 2002(平成14年度) 「はにわの十字路 -古代東国の交流と地域性-」
  - 2005(平成17年度) 「ペルシャ文明の曙 -文明の基層を探る-」
  - 2008(平成20年度) 「縄文時代の東・西」 開館15周年記念特別展
  - 2010(平成22年度) 「湯浅喜代治考古コレクション -夢を追った70年-」
  - 2012(平成24年度) 「東日本の古墳と渡来文化 -海を渡った人とモノ-」
  - 2013(平成25年度) 「松戸の発掘60年史 -市内の遺跡を再検討-」 開館20周年記念特別展
- 〈その他の展示〉
- 「土器からみた古墳時代の交流」
  - 「房総発掘ものがたり」
  - 「小金の遺跡 縄文時代～古墳時代」
  - 「下総史料館寄贈資料展」
  - 「ガンダーラ」



大森 隆志 学芸員  
専門分野:考古学  
主に旧石器時代・縄文時代を担当



土偶(貝の花遺跡)\*



縄文土器  
(上:子和清水遺跡)  
(下:幸田貝塚)

### 松戸は縄文遺跡の宝庫

ご存じのとおり、松戸は全国でも有数の縄文遺跡が多く発見される地域。特に幸田貝塚(縄文時代前期:約6000年前)は有名であり、出土品は国の重要文化財に指定されています。他にも子和清水遺跡・貝の花遺跡など、たくさんのムラの跡が見つかっています。

### 縄文人の文化や社会をテーマで展示

当館ではこれまでに「貝塚を考える」、「縄文土器の世界」「縄文時代の東・西」など、縄文時代を取り上げた展示を数多く企画、開催してきました。さまざまな文様をもつ土器から時期や地域の違いを視覚的に取り上げたり、ほかにも石皿・磨石などの生活道具、土偶・石棒といった祭祀道具、勾玉などのアクセサリーを展示し、縄文人の社会や文化を探りました。



石皿と磨石(幸田貝塚)\*

### 古墳時代の遺跡にも注目、松戸発見の渡来文化?

松戸というと縄文時代の遺跡が有名。でも実は古墳時代の遺跡もあります。これまでも市内で見つかった埴輪や土器から、「古墳時代の飾り馬」、

「はにわの十字路」などの企画展を開催しました。平成24年度に開催した企画展「東日本の古墳と渡来文化」では、市内発見の朝鮮半島と関わりをもつ資料を取り上げ、古代東アジアを舞台とした壮大な交流の謎に迫りました。



コシッキー  
松戸市行人台遺跡発見の土器・甕(こしき)をモチーフにしたキャラクターも誕生

### ガンダーラ美術から地元寄贈のコレクション展まで

他にも展示会として、「ペルシャ文明の曙」や「シルクロードとガンダーラ」など海外に視野を広げた企画、地元由来する寄贈資料を取り上げた「湯浅喜代治考古コレクション」展など、さまざまな視点やテーマの展示も行いました。海外の歴史に触れあう機会や場も多く提供していけたらと考えています。

### 体験コーナーの充実を目指して

当館プレイルームでは編布づくりや復元竪穴住居内で縄文時代の生活を体験できます。ほかにも常設展示に子どもワークシート(縄文クイズ)も設けており、今後もさまざまな取り組みを実施していきます。



試着もできます!

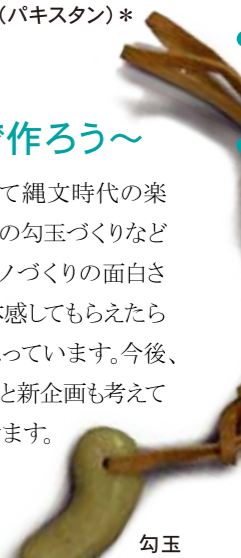
編布(アンギン)  
縄文時代の編み物である編布を体験できます

### こども体験教室 ～夏休みにみんなで作ろう～

夏休みには、人気イベントとして縄文時代の楽器である土鈴づくり、アクセサリーの勾玉づくりなどの体験教室を毎年開催。昔のモノづくりの面白さを体感してもらえたらと思っています。今後、色々と新企画も考えていきます。



土鈴



勾玉

### 松戸から世界へ —幸田貝塚の土器、フランス・カナダへ—

みなさんはご存じでしょうか。国の重要文化財に指定されている幸田貝塚出土の土器が、1998年にフランスで開催された「縄文展」(JOMON - l'art du Japon des origins-)、パリ・日本文化会館)、2006年にカナダで開催された「日本展」(ボワントカリエール モントリオール考古歴史博物館)に出展されました。



フランスで展示された土器\*



カナダで展示された土器

\*:小川忠博氏撮影

## レコード 人々が残した記録を頼りに、 過去と今とを考えてみる。

歴史部門は古文書や絵図・地図・写真といった  
レコードに籠められた情報を引き出すのが仕事。  
発見された意外な事実が、今を考<sup>よすが</sup>える縁になれば…  
と考えています。

### | 展覧会

歴史分野の主な展覧会は、常設展示の通史で伝えきれなかったこと、新たな資料発見や研究の進展に合わせて、戦国時代の高城氏や小金城、江戸時代の小金牧、同じく水戸道中の松戸宿・小金宿、明治時代以後の松戸の姿を映し出す写真といった、各々テーマを深く追求する展覧会を開催してきました。

開館10周年記念「川の道 江戸川」展は、常に松戸の歴史に深く影響を与えている「江戸川」をテーマに、三年間におよぶ考古・歴史・民俗の三分野の共同研究の成果として開催しました。

### 企画展 「小金城主高城氏」



### | 講座

「文字と格闘する」講座は、江戸時代の古文書の入門編、同じく中級編(2種)、鎌倉から戦国時代までの史料を対象とするもの、4つです。難解な用語やくずし字といった、一見取っ付きにくい題材ですが、「ホンモノの史料が直接歴史を語る声」を一度でも聞いてしまうと、病み付きになりますよ、きっと。



古文書を読む(近世中級編) 講座風景



中世史料を読む 講座風景

### 古文書を読む[近世入門編]

- 1993 古文書講座近世編
- 1994 古文書を読む・近世編
- 1995～ 古文書を読む・近世入門編

### 古文書を読む[近世中級編I・II]

- 1993 古文書講座近世中級編
- 1994 近世史料を読む・中級編
- 1995～2006 古文書を読む・近世中級編 [講師：渡辺一郎氏]
- 2007～ 古文書を読む・近世中級編I・II [講師：中野達哉氏・出口宏幸氏]

### 中世史料を読む

- 1993 古文書講座中世編
- 1994～1995 古文書を読む・中世編
- 1996～1998 中世史料を読む
- 1999～2001 将門記を読む
- 2002～2004 中世の資料を読む
- 2006～ 中世史料を読む

### これまでの主な展示

- 1993(平成5年度) 「松戸写真館—カメラがとらえた松戸の人々—」
- 1994(平成6年度) 「馬と牧—かつて松戸は牧場だった—」
- 1996(平成8年度) 「小金城主高城氏」
- 1998(平成10年度) 「水戸道中—宿場と旅人—」
- 2001(平成13年度) 「中世の東葛飾—いのり・くらし・まつりごと—」
- 2003(平成15年度) 「川の道 江戸川」(三分野共同) **開館10周年記念特別展**
- 2006(平成18年度) 「戦国の城をさぐる」
- 2007(平成19年度) 「大名の旅—本陣と街道—」

### 〈その他の展示〉

- 「館蔵「錦絵」展」
- 「錦絵から歴史を読む」
- 「複製版 広重の東海道五十三次(保永堂版)」
- 「写真で見る昭和の松戸」
- 「初夏の江戸名所」
- 「写真でみる松戸市の70年」



中山 文人 学芸員  
専門分野: 日本中世史



小高 昭一 学芸員  
専門分野: 日本近世史



柏木 一朗 学芸員  
専門分野: 日本近代史



特別展「馬と牧」  
かつて松戸は  
牧場「まきば」だった



特別展  
「川の道 江戸川」



館蔵資料展  
「写真でみる松戸市の70年」

### | 資料収集

歴史学分野では、松戸の歴史に関わる資料、特に文献資料(古文書など)を収集・保存し、調査・研究資料として利用、また展示で公開することに努めています。

1. 小金牧・御鹿狩関係資料
2. 虚無僧関係資料
3. 水戸道中・街道関係資料
4. 松戸市内旧村役人所蔵文書
5. 松戸市関係写真資料



「平塚」(東海道五十三次絵巻)虚無僧



松戸町役場(昭和7年落成)



松戸駅西口(昭和40年頃)



富士三十六景下総小金原

「今」につながる。  
伝える、伝わる。

民俗学は今を生きる人びとの生活が過去とどのようにつながっているのか、そしてこれからどのように推移していくのかを探っています。人びとが集団で、あるいは個人で伝えてきた日常生活の知を再発見して、今の自分をふりかえるきっかけづくりができればうれしいです。

## これまでの主な展示

- 1994 (平成6年度)  
「救いの民俗  
—地獄極楽冥土の旅路—」
- 1995 (平成7年度)  
「稲と魚—水田をめぐる  
漁・猟・採集—」
- 1998 (平成9年度)  
「福神の世界」
- 1999 (平成11年度)  
千駄堀土屋家寄贈資料展  
「着物と夜具」
- 2000 (平成12年度)  
「戦後松戸の生活革新—新しい暮らし方へのあこがれ—」
- 2009 (平成21年度)  
「人生儀礼の世界」
- 2014 (平成26年度)  
「Plastic?/Plastic! 高度経済成長とプラスチック」(予告)

### 〈その他の展示〉

- 「東北の伝統こけし」
- 「木のいれもの」
- 「あるく—身体記憶—」
- 「人生の民俗」

- 「昔のくらし探検」  
(1997年の「教科書のなかの道具とくらし」に始まり「昔のくらし探検」と名称を変えながら、学習資料展として毎年開催しています)



常設展示室には常盤平団地が昭和37年当時のまま復元されています



## 展覧会

### 企画展「戦後松戸の生活革新—新しい暮らし方へのあこがれ—」

昭和20年代後半から30年代にかけての松戸市域における生活の急激な変化をテーマとしました。展示では農村での生活改善運動の様子から住宅地化の先駆けであった常盤平団地の入居当初の生活を紹介します。

### 企画展「人生儀礼の世界」

人が誕生し、成人となり結婚し、やがて老いて死を迎え先祖となるまでの人生を豊かに彩る儀礼をテーマとしています。かつての農村で近隣の人々によって行われていた祝言や葬式などを展示しました。



### 企画展「稲と魚—水田をめぐる漁・猟・採集—」

水田は稲をつくるだけの場所ではなく、1年を通じて魚を取ったり、鳥を捕まえたりする場所でもあります。利根川下域に共通する生業についての紹介を行いました。



### 学習資料展「昔のくらし探検」(平成17年度～平成25年度)

小学生の社会科の授業に対応した展示として、竈や井戸などを使い、ガスレンジや水道、多くの家電製品を使わなかった農家のくらしを展示し、これらの道具を使った体験を行っています。



## 収蔵資料

### 幸谷観音旧蔵板絵

幸谷の福昌寺(幸谷観音)は馬の守り神として知られています。そこに奉納された板絵が22点収蔵されています。中には着物のミニチュアを取り付けた変わった額も。



### 郷土玩具

郷土玩具のコレクターから寄贈された全国の郷土玩具2,500点が収蔵されています。



### 東北の伝統こけし

東北地方の伝統こけし295点が収蔵されています。これもコレクターから寄贈されたものです。



### 衣生活資料

千駄堀の旧家より花嫁衣装や普段着などの着物や布団など562点の衣生活資料の寄贈を受けました。



### 下駄職人道具

下駄の製造販売をしていた職人さんから、下駄の製作用具235点の寄贈を受けました。



### プラスチック近代デザイン資料

生活に直接関係するプラスチック製品のデザイン資料2,300点の寄贈を受けました。平成26年度の企画展で一部を紹介する予定です。



## 調査研究

### 民家

平成元年から7年にかけて昭和15年以前に建てられた農家の主屋を基準に松戸市内の民家の所在確認調査を行いました。この調査成果は『松戸市民家調査報告書』として公表しました。



### 三匹獅子舞

調査研究：平成2年から4年にかけて、市内3か所で行われている「三匹獅子舞」という民俗芸能の学術調査を行いました。調査結果は『千葉県松戸市の三匹獅子舞』という報告書にまとめられています。

## 映像製作

### 送り大師—東葛印旛大師講の人々—

東葛印旛大師講は、四国八十八ヶ所霊場のミニチュアモデルとして千葉県北西部につくられた八十八ヶ所の札所を毎年、5月1日から5日に巡礼する行事で、送り大師とも呼ばれています。この映像は平成5年の巡礼の姿を記録しています。



映像製作：調査に合わせて、民俗芸能「三匹獅子舞」の映像記録を製作しました。おおきく分けて、概要編、総集編、演目編の3種類からなり、全部で18本あります。

